

二〇〇四年 ふくおか国民文化祭上演
二〇〇八年 山口県大会上演

作品名『スケッチブック』

作者名 渚太陽

連絡先 宇部鴻城高等学校

作品紹介

いじめを苦に自殺しようとする小学生の大介のもとに届いた祖母からのスケッチブック。そして、そこにしるされている祖母の青春時代へ、未来から彼を訪ねてきた謎の男にうながされ、バスガイドとともに、大介はタイムスリップすることになる。

男 3～5人 女 5～7人

キャスト

大介

操

祖母(母)

先生

良子

宮子

千

男

ガイド

柳田

子ども達の大介をいじめている声が聞こえる

声1 おまえもう死んじやえば？うざいんだよ。

声2 ばーか。

声3 何か言ってみろよ。

声4 はははは。

大介 やめてよ。そんなこと言うなよ。僕が何をしたらって言うんだよ。

声1 やめてよだつてさ。キモイ！

声2 お前なんて生きてる価値なーし！

声3 早く遺書かけよ。

声4 何だったら、手伝おうか？

大介 やめてよ。

声1 ほら貸してみるよ。

大介 お願いだよ。

みんな ははははは

扉を叩く音

大介の母 大介。大介。居るんでしょ？返事ぐらいしなさい。

大介 ……。

大介の母 お祖母ちゃんから荷物が届いてるわよ。ここ置いておく

わよ。……さつき電話でね、たまには、顔見せろって言

ってたわよ。そうだからどうどいいわ。夏休みなんだからお

祖母ちゃん所に行っておいでよ。あんたデイズニールランド

行きたいって言うってたじゃない……大介……お母さん

ね……

暗転

セミの声

大きな木のあるところで遺書を書く大介
木には首吊り用のひもが下がっている

大介

えーと、全略（前略を間違えている）……って全部省略したら中身書かないうちに終わっちゃうじゃないか。やっぱり、ここは、背景（これも拝啓を間違えている）……やっぱり景色は大事なんだろうな、こういう物を書く時は。えーと背景、背景はまあ、都会のはずれの田舎って感じです。みなさん色々お世話になりました。僕は生きていることに疲れてしまいました。というわけで今から死にます。何か、僕なんて生きてる価値もないし……まあ、特に夢なんてないし、本当もういいかなって感じです。いじめられて死を選ぶ奴は馬鹿だなあって人ごとのように思っていましたけど、いざ自分がいじめられてみると死んでもいいかなって思っちゃいます。そういう風に弱い考えしかない僕なので生きていても意味がありません。だから死んだ方がましですね。そうそう（草々）……ってそうそうという言葉も何だか寂しい気持ちにさせるな。手紙って切ないね。えーと平成二十年……

携帯電話の着信音楽

大介 あっ、お祖母ちゃんからだ。うん僕、大介。どうしたの？

う、うん元気。届いたよ。スケッチブックでしょ、まだよく見てないけど。持ってきたよ。へー、そうなんだお祖母ちゃんが描いたじゃないんだ。ううん。もうすぐ着くよ。近くになったらまた電話するね。それじゃあまた……。

スケッチブックを手に取り眺める大介

大介 それにしても汚いスケッチブックだな。この女の人、お祖母ちゃんの若い頃なのかな……？柳田って誰だろう？

木の根本の穴から老人現る

男 おー、懐かしいなあ。ここら辺りも昔のままじゃないか。

大介 うわー何だ！何だよ！

男 おお、まだ立派にあるじゃないか。……なくなるんだよな、この木。

大介 お、おじさん誰？

男 あ、いやーすまんすまん。驚かせてしまったな。えーと

君、大介君か？

大介 えっ？どうして僕の名前知ってるの？それに今、木の根本の穴から出て来ませんでした？

男 ガイドさん、ガイドさん。場所ばっちりだよ！

バスガイド風の旗をもったガイドが、木の根本から登場

ガイド ちょっとー困りますよ。勝手に移動したら。いいですか、タイムスリップをしてきた場合、その時代の人とはなるべく関わらないようにしないとイケないんです。ですからこうして現地の人や物を触ったりする行動は慎んでもらわないと……

大介 お姉さん誰？

ガイド お姉さん誰って……きゃー！あなた、私のことが見えるの！？

大介 まあ、一応視力はいいんで。

ガイド あっ！もしかして大介君？

大介 えっ？お姉さんまで、どうして僕の名前知ってるの？

ガイド ということは……やったートリップガイドしてて初めてピンポイントで目的の場所にタイムスリップできたー！

男 よかったな。

ガイド ええ、早速本部に連絡しておきます。

大介 あのーさっきからタイムスリップとかって一体何のこと

ですか？

男、大介の書いていた遺書を拾って読む

男 なあ君、自殺しようとしているんだろ？

大介 あ、ちよつと勝手に読まないでよ。

男 本当に死のうとしているのか？

大介 おじさんには関係ないだろう！大体誰なんだよ。

男 ああ、悪い。えーオホン。何を隠そう、私は未来から来た未来人だ。

大介 未来から来たねー……エーっ！何言ってるの？

男 なかなか良いリアクションだな。まあ、驚くのも無理はないよな。実は、俺は今から七十年後の未来から来たんだ。

大介 どういうこと？

男 今から七十年後に私は死ぬんだ。まあ、とても有意義な人生だったよ。それで、死んだ人間はその頑張ったご褒美に一度だけ過去に戻ることを許されるんだ。

大介 エーっ！死んだら過去にタイムスリップできる？

男 だから、私は自分がまだ若かったこの時代に戻ってきたんだ。

大介 おじさん、頭は大丈夫？だいたい、七十年後って、そんなに歳をとった風には見えないけど……

男 タイムスリップをする時は、自分の希望する年齢でこう

やって戻る事ができるんだよ。

ガイド ちよつと、あんまり過去の人にタイムスリップのこと教えちゃダメですよ。過去の人間にはなるべく関わらないようにって説明したじゃないですか。

男 いいじゃないですか。私は、この少年に会いに来たんだ。

少しぐらい、話をさせてもらっても。第一、私の記憶はこの時代の人には残らないでしょう。

ガイド ええまあ、そうですね。

男 だったら、少しぐらいいいでしょう。

でも、タイムスリップのシステムについて細かく説明するのはどうかと思います。それとあまり強い印象がある場合は記憶が残ることも稀にありますから。

大介 ちよつとちよつと。ねえ、さっきから言ってる話は本当の話なの？本当に死んだらタイムスリップできるの？

ガイド 自殺の場合は出来ませんが。

ちえっ、そうなの？じゃあ、未来はどうなってるの？何か考えただけで食べ物が出てくる機械とかがあるの？

未来のことを知ってどうするんだ？第一、君は自殺をしようとしてるんじゃないのかい？だったら、未来の事なんて聞いても仕方ないだろう。

大介 ……。

ガイド とにかく早く願いをかなえましょう。

男 そうだったな……

スケッチブックを手取る男

男 おおこれだ、これ。なあ、君、もうこの中身を見たか？

大介 えっ？おじさんこのスケッチブックを知ってるの？

男 まあな。

大介 どうして知ってるんだよ。

男 そんなの未来から来たんだ。何でも知ってるよ。

大介 本当に未来から来たの？

男 さっきから言ってるだろう。そうだって。なあ。

ガイド ええ。

男 それでどうだった？中身見たんだろう？

大介 どうだったって……まあ何か、汚いスケッチブックだなあ

なあって。

男 それだけかよ。もう大事な部分を見てないんだな。

大介 大事な部分って……？

男 お祖母ちゃんがどうしてこのスケッチブックを送ってきたと思う？

たと思っ？

大介 分かんない。

男 あのな、……だったら、教えてやるけど。

ガイド ちよつと。

男 そうだったな。悪い悪い。

大介 ????

男 ここだよここ。なんて書いてある。

大介 柳田。

男 日付は。

大介 えーと昭和二十年三月十日……

ガイド もういいでしょ。説明はそのくらいで。

男 分かってるけど……もう少し。

ガイド いくら説明しても、私たちが直接過去を変えることはできないんですよ。

大介 あのー？

男 分かってるって。

ガイド それにあまり時間もありませんよ。

男 はいはい。

大介 あのー、おじさんとこのスケッチブックって何か関係があるんですか？

男 まあ君。

大介 はい？

男 過去に行ってみないか？

大介 はい？……えーっ？ぼ、ぼくが！

男 そうだ。行ってみたくないか？

大介 いや、その本当に僕が？どうして？

ガイド この人の願いなのか？あなたを過去に行かせるって事が。僕を過去に？どうしてだよ？

大介 君に、お祖母ちゃんの過去を見せてやりたいと思ってな。

男

大介

男

そして、そのスケッチブックにある昭和二十年三月十日の
日本で、何があったかを、見せてあげたいんだ。

大介　でもどうしておじさんの願いが、僕に過去を見せるって
事になるのさ？

ガイド　それは、あなたが自殺しようとしてるから。

大介　え？どうして？僕の自殺が関係があるの？

ガイド　それは……

大介　じゃあ、僕は本当に自殺するんだね。

男　遺書らしきものもあるしなあ。

ガイド　……それはわかりません。ただ言えることは、この人
が未来から来て、君に過去を見せようとするのは、運命な
のです。

大介　運命……

ガイド　運命には逆らえません。

男　まあ、難しいこと考えずに、過去に行つてこいよ。

大介　僕がタイムスリップ？

男　ただし、このスケッチブックにある君のお祖母ちゃんが
若かった頃に行つてもらおう条件だけだな。行つてみるか？

大介　何かよく分からないけど、お祖母ちゃんの若い頃に会
えるんだ。なんだか楽しそうだな。どうせ、死のうと思っ
てたんだ。何にも怖くないし、この柳田つて人にも会える
かもしれないしね。僕行つてみるよ。

男　そうか、行つてくれるか？

大介　うん、いいよ。

ガイド　良かったですね、願いが叶つて。

男　ああ、運命や過去は変えられない。私はあの頃、本当に
苦しかったんだ。世の中の不公平や不平等に嘆いていたん
だ。それでも生きていこうと思つたのは……

大介　ねえ、早く行こうよ。おじさんありがとう。

ガイド　ちよつと、もう。いいこと。過去に行つたら、ちゃんと
私の言うことを聞いて勝手な事をしないでよ。基本的には
出会つた人たちにあなたの記憶は残らないけど強い印象の
場合は残る場合もあるからね。

大介　わかつたから、早く。

ガイド　じゃあ、ここで待つていてください。すぐ戻りますから。

男　ああ、気をつけて。

暗転

女学生たちの声　一・二、一・二

シルエットの中で竹槍の訓練

操　たあー。痛い。(転ぶ)

先生　そのあなた、たるんですよ。気合いを入れなさい、

気合いを！

操　はい！

先生　やめ！ここで小休止。各自休みなさい。

一同 はい！

先生下手にはける

操 あーあ、疲れちゃった。

宮子 本当。腕なんかガクガクしてる。

千 先生なんだか、段々怖くなるね。

良子 仕方ないよ。戦局はいよいよ本土決戦なんて言ってるんだから。「あなた達、皇国日本の子女として一億総玉砕の精神で戦いなさい！」だもん。

宮子 おっかない。

操 戦争なんて早く終わればいいのに。

千 操そんなこと言うもんじゃないよ。

良子 そうそう、誰かに聞かれていたら「非国民」って言われるよ。

操 だって、戦争が終わればご飯だってきつと、沢山食べられるのって思ってるの。

千 操ちゃんは、食べることはわかり。

宮子 食意地が張ってるからね。操は。

操 何よ。イイじゃない。

良子 でも、私もお腹いっぱい食べたいな。白いご飯。まあ、夢だけどね。

宮子 なんだか、みんながそんな話するから、お腹が減って来

千 ちゃったじゃない。

私も・・・

操 あーあ、何で日本は戦争なんかやってるんだろう・・・

お母さん（お祖母ちゃん）が登場

母 みんなご苦労様。

操 お母さん。何しに来たの。

母 何しに近くなって来て来たもんだから、あんた達の様子でも見ようかなって思って・・・

千 こんにちは。お婆さん。

母 こんにちは。

良子 どうも、お久しぶりです。

母 あれ、良子ちゃんか。久しぶり。

操 もう、お母さん。早く帰ってよ。

宮子 あれ、お婆さん何持ってるの？

母 ああ、これかい。今ね、近くの畑で出来た芋を分けてもらって、ふかしてきたところさ。あんた達食べるかい？

宮子 私食べたい。

操 宮子。

母 千ちゃんは？

千 私もお腹空いてきたな・・・

母 遠慮することはないよ。

良子 自分もいいですか？

操 もう、良子まで。

母 ほら、操。何ぼやっとしてるんだい。みんなに配っておあげ。

操 だって、訓練中だし…

母 今は休憩中なんだろ。

操 でも…（グー お腹の鳴る音を良子が真似する）

宮子 あー操、お腹が鳴ってるよ。

千 操ちゃん、おかしい。

操 違うよ、今のは良子ちゃんが。

良子 はははは。

操 もう、みんなして笑って…

母 ほら、お前もお腹空いてるんだろ、さあ。

操 まあ、ちよつとならいいよね。

宮子 先生もまだ戻ってきそうもないしね。

良子 うん。

千 食べようよ。操ちゃん…

操 そうだね、食べよう。

歌を歌いながら、みんなに芋を配る

晴れ渡る空 何もない空

何もないけど 今は幸せ

あなたの笑顔 あなたの歌を

なにもないけど 今は歌おう

風が吹いて 鳥が歌う

それが私の青春

今は笑顔忘れないで きつといつか夢の中へ

一同 笑顔

大介登場。ガイドも登場するがみんなには見えていない

みんな ふふふふ

大介 あのー？すいません。ちよつといいですか？

みんな えっ？

宮子 誰？

良子 誰だろう？

千 誰かしら？

操 あーっ！大ちゃん！大ちゃんじゃない。ねえ、母さん。

ほら。

母 あー確か親戚の宮前さん所の…大介君

操 そうそう。

大介 えっ？いやあの？

操 ほら、覚えてる操よ操。小さい頃、よく遊んだじゃない。

東京に出てきたの？

大介 えっ？操？

操 何だ、忘れちゃった？「操姉ちゃん」っていつも泣きながら抱きついてきてたじゃない。

大介 ……と言ふことは、お祖母ちゃん？

操 何？お祖母ちゃん？えっ？

大介 あ、いや、その……

ガイド どうやら、あなたを親戚の子どもと間違えているみたいね。ここは上手になりすました方がいいわよ。

良子 へえ、操の親戚。

宮子 そうみたいね。

良子 何だか変な服装ね。

千 新しい国民服かしら？

大介 あ、そうだ、そうだ。思い出したよ。操姉ちゃんだよ。

操 やっぱりそうね、びっくりするじゃない。どうしたのよ急に。それにしても変な格好してるのね。

大介 えっ？あつこれは……（ガイドが耳打ちをする）ああ、配給でもらったんだよ……久しぶりだね、お姉ちゃん。

良子 配給でもらえるんだ。

宮子 色が綺麗ね。私も欲しい。

千 親戚の子なんだね。

母 まあ、大きくなったわね。元気だった？

大介 え？あ、まあ。それなりに。

母 懐かしいわね。

大介 若い頃のお祖母ちゃんって……あついやお姉ちゃんって、結構きれいだね。

操 もうやだ、本当のこと言って、恥ずかしいじゃない。

大介 あの、ところで「柳田正」って誰？何処にいるの？

操 ちよつと、何で大ちゃんが知ってるのよ

宮子 あれー？

良子 ヒューヒュー

宮子 噂は遠くまで飛んでいくものなのね。

千 ねえ。

良子 あつちを見ては柳田さん。

宮子 こっちを見ては柳田さん。

良子 ため息ついては柳田さん。操ったら寝ても覚めても柳田

さんのことばかりなんだからねえ。

操 ちよとみんな何言ってるのよ

宮子 私、柳田さんにまた会えるかな？

良子 （柳田を装って）ごめんね、待たせちゃつて。

千 ずっと待つてました！

みんな あーん、柳田さーん。

操 ころ、宮子！千ちゃんまで。

みんな はははは

大介 ねえ、ガイドさん昔も今もあんまり変わらないね。女の子たちって誰が好きとか嫌いとか。僕のクラスの女の子た

母 ほら、操も手伝って。はい、大介君どうぞ

大介 あ、どうも。

操 また、芋粥？この間の配給のお米があるでしょ。だった
ら……

母 贅沢言うんじゃないの。戦争中なんだよ。お粥が食べら
れるだけでも感謝しないとね。

大介 いただきます。これあんまりおいしくな……痛い！（バス
ガイドにどつかれる）

母 うん？大介君どうかした？

大介 あ、いやおいしいナーこんな芋粥食べたことないよ。お
いしいおいしい。おかわり。

母 もう、上手言ったって何にもありませんからね。ほら見
なさい大介君の方がよっぽど立派じゃないか。兵隊さんた
ちは、毎日お国のために戦ってるんですからね。贅沢は敵
です。

操 何だかお母さん、先生みたいね。本当、あの先生おっか
ない。

母 あんたが、そんな風だから先生も怒りたくないのに怒っ
てくださるのよ。気合いを入れなさい、気合いを。

操 やだ、お母さん見てたの？

母 ふふふ、そうね。少し厳しい感じだね。でも、私たち女
もこの国を守っていくという気概だけは持つておかないと
ね。ほら、早く食べちゃいなさい。

操 はい。

母 返事はハッキリ短く。

操 はい。

母 ふふふふ。

操 ふふふふ。

大介 ねえ、柳田さんってどんな人？

操 え？どんな人って……

母 お母さんも聞いてないね。柳田さんのこと。

大介 ねえ、教えてよ、お姉ちゃん。

操 ……訓練の帰り道にねみんなでふざけてたら足をくじ
いてしまったね。その時、側を通った柳田さんが小川の水
に自分の手ぬぐいを濡らして足を冷やしてくれたの。

大介 へえ。

操 それはよかったね。

母 本当、優しい人だった。

操 操？

母 何？（ちよつと上の空）

操 芋がついてるよ。ここ。

母 あ、うん。

操 ……あんた、恋してるね。

母 ヴーごほつごほつ、ちよつと何言い出すのよ。

操 お姉ちゃん、柳田さんのことが好きなんだね。

大介 大ちゃんまで何言ってるのよ。そんなんじゃないわよ。

大介 あー、ごまかしたって顔が真っ赤だよ。
操 こら、大介！

追いかける操。逃げる大介

大介 はははは

母 ふふふふ

操 待って言うてるでしょ。

母 こらこら止めなさいよ。二人とも。気持ちに分かるけど

こんなご時世なんだから行動だけは凜としてね。わかった。

操 分かっています。

柳田 こんばんは。こんばんは。

母 はい。誰かしらこんな時間に。

柳田 あのー柳田って言います。

操 柳田さん？

母 操早く。

柳田登場。

柳田 こんばんは、初めまして柳田正と言います。

母 まあまあ、いつぞやは操がお世話になったみたいで…

柳田 あ、いえ。

大介 へーこの人が柳田さん。

操 あの、どうしたんですか？

柳田 実は、この間の件で来たんだ。

母 この間の件？

柳田 はい、僕は道楽で絵を描いてるんですが、実は操さんを

絵に描きたいとお願ひしていたんです。

母 まあ、操を絵のモデルに…

柳田 操さん、是非描かせてください。お願ひします。今日は

陸軍記念日でみんな出払っているので遅くなってもいいん

です。だから…

操 でも、私…

母 いいじゃないの操。柳田さんも頼んでるんだし。

大介 そうだよお姉ちゃん。

操 ……わかったわ、じゃあ。

柳田 ありがとうございます。

操 じゃあ、行って来ます。

柳田 失礼します。

母 行ってらっしゃい。気を付けてね。

大介 お姉ちゃん何だか照れてたね。

母 それにしても柳田さんっていい男だね。おばちゃんもも

う少し若かったら…

大介 僕、ちよっと見てくる。

母 大介君こら、やめなさいって…もう

暗転

#星降る夜に……

柳田 こっちこっち。

操 そんなに急がなくても……

柳田、座る所を探す

柳田 僕ね、この戦争が終わったら絵描きになろうと思ってる

んだ。夢なんですけどね……おかしいでしょ。

操 素敵な夢ですね。

柳田 そう言ってもらえると嬉しいです。ありがとうございます。

操 ふふふ。

柳田 えーと、あつ、ここがいい。ここに座って。

操 あ……でも、やっぱり恥ずかしいな……

柳田 恥ずかしがること無いよ。

操 それにもう、夜で暗いからあまり、顔とか見えないと思

うし……

柳田 ううん、星の明かりで十分だよ。それに見えないくらい

が丁度いいし。

操 どうして？

柳田 だって、昼間だったら、あんまり君の笑顔がまぶしくて

さ、見つめていられないかも知れないだろ。

操 えっ？

柳田 ……冗談。

操 まあ、ひどい。人をからかって。

柳田 ごめん、ごめん。

操 もう。

柳田 さあいいから、いいから、まあ、そこに座って。

操 でも……

柳田 ほら、早く早く。

操 ええ。

操 腰をおろす

柳田 対面に座り、絵を描き出す

大介がやってきて陰から覗く

柳田 さっきの男の子誰？

操 えっ？あ、えっと従兄弟の大介。今晩は大介君のお母さ

んが遅くなるから、泊まっていくの。

柳田 変わった服装してたね。

操 配給でもらったんですって。

柳田 そうなんだ……

操 どうしたの？

柳田 いや、何でもないよ。ただ、僕の弟も生きていたら、あ

れぐらいの歳かなって。

操 弟さんいらしたの？

柳田 うん、栄養失調で亡くしたんだ。小さい時にね。

操 そうだったの……ごめんなさい。

柳田 仕方ないよ。そういう時代なんだ。

操 でも……。

柳田 あのさ、冬の星座って綺麗だと思わない。

操 え？あーうん、本当綺麗だわ。素敵な星空ね。

柳田 ねえ、双子座って知ってる？

操 ええ知ってるわ。でも何処にあるのかは、分からないわ。

柳田 オリオン座って分かる？

操 えーと、あの星が三つ一列に並んでる正座よね。

柳田 そうだよ。そのオリオン座の青白く光る「リゲル」と赤

く見える「ベテルギウス」を真っ直ぐ結んで左上の方に

くと左右対称の双子座があるよ。ほら。

操 え？……どれ？

顔を近づける柳田

柳田 ほら、あの星と青の星をこうやって結んで……

操 あっ。

柳田 うん？

操 あ、あれね。うん。わかった。

柳田 双子座の兄弟には、カストルとポルックスって言う名前

があるんだ。従兄弟との戦いにより、兄のカストルを失っ

たポルックスは、父親のゼウスに兄と一緒にいられるよう

に頼んだんだ。心をうたれたゼウスは、世界中のすべての

兄弟姉妹たちが、2人を手本に仲良くなるようお願いを込め

て、二人を夜空に上げて星座にしたんだって。

操 悲しいけど素敵な話ね。

柳田 それでね、実際には兄のカストルよりも弟のポルックス

の方が輝いてるなんて……何だか不思議だね。……も

しかして僕の弟も生きていたら、僕よりも輝いて絵を描い

たり出来たんだろうな。

操 もしかしたら、柳田さんよりも絵が上手かったりして。

柳田 あっ、言ったなあ。

操 えへっ、さっきのお返しよ。

柳田 あ、あはははは

操 ふふふふ。

間

柳田 何だかこうしていると日本が今戦争していることなんか

忘れちゃいそうだよ。

操 本当ね。ずーっと昔からこうしていたみたい。

柳田 今、僕たちが目にしているあの星たちの輝きは、ずっと

昔に輝いた光が長い時間をかけて僕たちに見えているんだ。
長い長い時間よね……

柳田 星はね、人間たちが醜く争ってきた歴史の中で、ずっと

昔から変わらずに輝いているんだ。弟も今、きつと、星になつて、僕たちを見ているんだろうな。

操 そうね……きつと柳田さんを見守ってくれているわ。

ガイドが来る

大介 何処に行ってたんだよ。

ガイド ちょっとね。で、どんな様子？

大介 いい雰囲気だよ。恋人同士って感じ。

柳田 出来た！

操 え、もう？見せて見せて・

柳田 うんいいよ。

操にスケッチブックを見せる。

操 まあ、私こんなに綺麗じゃないわ。

柳田 何言ってるんだよ。実物の方がもつと綺麗だよ。

操 え？何よ、また冗談のつもり。

柳田 違うよ。あの……その……本当にそう思ってるんだ。

操 う、うれしい……

二人沈黙

柳田 操さん！

操 はい。

柳田 あの、僕……

操 はい……

見つめあう二人

大介、ガイド 二人に近づき、スケッチブックをのぞき込む

大介 本当上手いなあ。

操・柳田 え？！

操 大ちゃん何してるの？

大介 いや、気になってついて来ちゃった。

操 じゃあ、ずっと見てたの？

大介 まあね。

柳田 ひどいじゃないか、盗み見するなんて。

操 そうよ。

柳田 君は、男として、あの、その、は、恥ずかしくないのか？

もう……(照れて困った様子)

大介 ああ、ごめんなさい。お二人のお邪魔でしたね。

柳田 何を言ってるんだ。そんなんじゃないよ。

操 そ、そうよ。

大介 柳田さんも、お姉ちゃんのこと好きなんだね。

操 え？

柳田 あ、もう何言ってるんだよ。

操 そうよ、勝手なこと言わないでよ。

大介 じゃあ、嫌いななの？

柳田 え？そ、それは……。

操 柳田さんに失礼でしょ。

柳田 そんなことはないよ。

操 え？

柳田 大介君。今、柳田さんも……って言ったよね。

大介 うん。(ニヤニヤ)

操 あ……

柳田 操さん……

操 柳田さん……

近づく二人

ガイド 操の背中を押して二人を強引にくつつける
思わず、抱き合う二人

操 あ、すいません。わ、私……？

柳田 あ、あの……

操 いやだ、どうしてつまずいたのかしら？

大介 ゴホン。あのう……僕も居るんですけど。

操 あ、ご、ごめんなさい。

柳田 いや、その……

慌てて離れる二人

大介 (ガイドに) もう何やってるんだよ。

ガイド てへっ(笑)

大介 あ、そうだ。良いこと思いついた。(携帯電話を取り出す)

ちよっと、そこに並んで。

柳田・操 ……？

大介 ほら、早く。

柳田 どうして？並ぶんだい？

大介 いいから、いいから。

操 どういうこと？

大介 もっとくつついて。ほら、下向かないでよ。

ガイド、二人の体を無理矢理くつつける

柳田 うわ。

操 あれ？もう、さつきから何なの……

大介 そうそう、そんな感じ。じゃあ、こここの部分をよおく見

ててね。

柳田 一体何をしようとしてるんだい？

操 そうよ、大ちゃん何なのそれ？

大介 いいからいいからじゃあ、笑って、ハイチーズ！カシヤ。

柳田・操 ?????

大介 星の明かりにしたら、結構よく取れたな。ほら見てよ。

柳田 わー、写真だ！操さんが写ってる。

操 本当、柳田さんも綺麗に…

大介 へへへへ

操 すごわね、こんなに小さな写真機見たことないわ。

柳田 どんな仕組みなんだろう。チョット見せてくれないか？

大介 いいよ。

携帯電話を手渡す

柳田、見ていたら電話を落としてしまう

すると携帯電話から音楽が鳴る

柳田 うわっ、ごめん。大介君、壊れてないかい？

大介 いいよいいよ、大丈夫。

操 音楽が鳴ってるみたい。

柳田 音楽も鳴るのかい？すごい機械だな。

操 本当、ラジオみたい。

大介 まあ、他にもいろいろできることはあるんだけどね。

柳田 その曲、なんて曲なのかい？

操 あんまり聞いたことのないような曲ね。

大介 ああ、これ？これは、オレンジ…って言ってもわかんないと思うけど「落陽」っていう曲。

柳田 落陽…：そうだ。この曲に合わせてみんなで踊らない？

操・大介 えっ？

柳田 楽しそうな曲じゃないか。ほら、こうやって。

柳田、携帯電話の周りを踊り出す

柳田 操さんも一緒にどうですか？ほら、夏祭りの振り付けでも

構わないじゃないですか？

操 で、でも…

柳田 いいからいいから、楽しいですよ。

操 じゃあ…

操、盆踊りの振り付けで踊り出す

柳田 上手いじゃないですか操さん。ほら、大介君も一緒に。

大介 えーっ、僕はちよっと…

ガイドに押されて、踊りに加わる

柳田 そうそう、いいぞ。

大介 もう、何するんだよ。

ガイド いいじゃないの。

星々が輝く夜空の下で

恋人同士とその孫とバスガイドが楽しげに踊り出す

操 こんなに楽しい気分になったのは、久しぶりだわ。

柳田 本当、楽しい夜だな、今日は。ありがとう、大介君。

大介 喜んでもらえて良かった。

柳田 操さん、踊りが上手ですね。

操 え、上手だなって。ただの盆踊りですし……

大介 盆踊りってのも結構疲れるもんだね。汗かいちやったよ。

柳田 ……：僕ね、入隊することにしたんだ。

操 え？…：だって、まだ……

大介 え？入隊？

柳田 志願したんだよ。男はやっぱり戦地に行かなくちゃいけないと思うんだ。

操 ……

柳田 それに、見事お国のために死んで花を咲かせたら、弟と一緒に双子座になれるかも知れなしね……

操 いやよ。

柳田 えっ？

操 そんなのいやよ。

柳田 ……：君だって知ってるだろ。年末から空襲が続いて、ここらだっていつ攻撃されるか分からないんだ。そんなことになって、もし操さんや操さんのお母さんが死ぬようなことになったら……：僕は……

操 でも……

柳田 母さんもね、お腹をすかせている僕にいつも食べ物をつけてくれて自分が、栄養失調で死んじゃったんだ。きっと弟を栄養失調でなくしたから、僕にはそうなって欲しくないという思ってたんだと思う。母さんはね、僕を守るために死んだ……：だから今度は僕が、命をかけて、操さんや操さんのお母さんを守る番なんだ。

操 そんなの……：柳田さんのお母さんがのぞまれてる事じゃないわ。

柳田 仕方ないじゃないか、それが戦争なんだ……

操 ……

柳田 きつとね母さんも生きていたら、お国のために働けて、言ってくれると思うんだ。

操 そうかしら……

柳田 大介君だって男なんだからすぐに戦地に行かなくちゃならなくなる。

大介 僕が戦争に……

柳田 ましてや女だって内戦に向けて訓練してるんだろ。そし

たら何時どうなるかなんて分からないじゃないか。だから、僕が死ぬことによつて、みんなを少しでも守ることが出来るんだつたら……

操　でも、どうして今じゃなければならぬの？

大介　そうだよ、柳田さんが行く必要があるの？

柳田　大介君……

飛行機の爆音

操　何？

大介　何だろう？

柳田　敵機？

操　だって、警戒警報は解除されたんじや……

柳田　おかしいな……？

大介　あれ、もしかしてB29？僕、社会の授業中ビデオで見たことがあるよ。

操　B29？

爆音が大きくなる

警報が鳴る

柳田　大変だ無差別攻撃だ！家の方が心配だ急ごう！

操　ええ。

走り出す二人　ガイドと大介にスポット

大介　ねえ、ガイドさん。どういうこと？

ガイド　……。

大介　ねえつたら。

ガイド　……。

大介　ガイドさん、三月十日の日本に一体何が起きたんだよ！

ガイド　……：東京大空襲。アメリカ軍編隊が首都圏上空に飛来。

高度1500mの成層圏まで達し、秒速25m以上、台風並の暴風が吹き荒れ、その日東京は、火の海となった……

大介　そ、そんな……

舞台赤くなる

空襲のシーン

逃げまどう人々

助けを求める声

柳田　大変だ！

操　お母さん！

燃えさかる炎に包まれた母

建物に挟まれている

柳田 おばさん。

操 お母さん！ああ、お母さんが…

柳田 今助けます。

操 お母さん！お母さん！誰か誰かー！お願いします。助けてください。

見知らぬ男が通りがかるが、無理だから諦めろと言って去る。

母 操…

操 頑張つて、お母さん。（取り乱した様子）

柳田 くそっ！熱い！くそ！

操 来るな！消えて！

母 ああ…

柳田 くそ、畜生！待っていて下さい！おばさん！

操 お母さん…

母 操…逃げて…

操 何を言ってるの、お母さん。

柳田 くそ！熱い。火の勢いが止まらない。

母 ほら、早くしないと、もうすぐここは火の海になる。だから、早く…ああ…

操 やだ、お母さん、やだ…死んじゃあ嫌…いやよ。

母 何してるの…ああ。

柳田 くそ、熱い。重い…よし、誰か、助けを呼んでくる。

母 柳田さん…待って…

柳田 えっ！？

母 もう、私は、駄目です。早く逃げて下さい。

柳田 何、何を言ってるんですか。

操 そうよ、お母さん、あきらめちゃ駄目よ…

母 早くしないと、あなた達まで火に巻き込まれるわ…ゴホッ、ゴホッ

柳田 で、でも…

操 いや、いやよ、お母さん…わたし、ここにいます…

母 早く、操を連れて逃げなさい。

柳田 いやです…もう、大切な人を失うのは嫌です！

母 それでも日本男児ですか！国のために命を投げ出す、みにこの民ですか！！

柳田 あなた達一人を守れないで、何のための…何のための戦争ですか！

操 操をお願いします。だから…早く！

母 駄目よ。お母さん。

柳田 逃げなさい！操まで死なせるつもりですか！

操 嫌…お母さん。

母 ……すみません。許してください。操さん逃げましょう。嫌よ！駄目！柳田さん！逃げるなら一人で逃げて！

柳田 駄目です。操さんまで死なせることはできません！

母 ……み、操……

柳田 ……おばさん……操さん、さあ、早く！（操の腕をつかむ）

操 嫌！離して、柳田さん、離して下さい！！

柳田 逃げるんだ！操さん！

操 いやー……っ！お母さん！！

母 操を頼みます。

操 お母さ………ん！

柳田 操を引き離す

燃えさかる炎

母 （急に）操！どうしたのまた、良子ちゃんと喧嘩でもしたの？よしよし、操、おなかがすいたのかい？ごめんね、

お母さんのお乳の出が少なくて、そうだ、子守歌を歌って

あげるよ、操。

ねんねん ころりよ おころりよ

ぼうやは良い子だ ねんねしな

ぼうやのおもりは どこへいった

あの山越えて 里へいった

里のみやげに なにもろた

でんでん太鼓に 笙の笛

（歌いきらずに）

業火の音と爆音

暗転

軍服姿の柳田

進軍のラッパが響く

見送りに来た、操

柳田 じゃあ、いくね。

操 くれぐれも、お体には気をつけて……

柳田 操さんも……

操 ええ。

柳田 （敬礼して）柳田正。この命、お国のために天皇陛下のために、そして……操さんの為に捧げます。

操 生きて……生きて帰ってきて下さいね。

柳田 必ず……これ、受け取って下さい。

操 これは……

柳田 僕だと思って、持っていて下さい。

操 分かりました。大切に持っておきます。だから……

柳田 はい……では、行って参ります。

汽車に乗りこむ柳田

汽笛が鳴り響く

操 柳田正、万歳！万歳！

柳田 下手に去る

操に静かにスポット

操 万歳！万歳！……どうして……何のために……お母さん……何

のための戦争ですか？……（スケッチブックを見つめて）柳田さん……人の夢まで奪ってしまつて……私はどうすれば……死なないで柳田さん……生きて……生きて帰つてきて……もう一度、夢を語りましょう……ああ、晴れ渡る空……何もない空……何もないけど……今は、笑顔忘れないで……きつといつか夢の中へ……

スポット消える 背景に空襲や原爆投下の映像

ガイドと大介にスポット

ガイド 時間よ。

大介 分かつてる……そんな大切なものだったんだ。あのスケッチブック……

ガイド ええ。

大介 この後日本はどうなるの？

ガイド この後、名古屋、大阪、そして再び東京と、空襲が続き、

君も知つての通り8月には広島、長崎へ原爆が投下され、

日本の無条件降伏で戦争が終わつたわ……

大介 柳田さんとお祖母ちゃんはどうなつたの？

ガイド 柳田正と君のお祖母ちゃんはその後、再び出会うことは

なかった。戦争は、何もかも奪つてしまつたの。

大介 お祖母ちゃんの初恋も……

背景に終戦の玉音放送が流れる。

暗転

セミの声

大介 あれ？ここは……

首つり用のひもを握つて見つめる大介

男現れる

ズボンが下がりそうで慌てる

男 おつ、少年。良かったらそのヒモおじさんにくれないか？

大介 あ、あの、は、はい。

男 サンキュー。助かつたよ。旅行中にベルトが切れちゃつ

てな。近くにコンビニもなかったから。ありがとうな。

大介 いえ、どうも。

男 本当に、立派な木だなあ。懐かしい。

大介 (男を見つめる)

男 どうした少年。俺の顔になんか付いてるか？

大介 い、いやあの……

ガイド もう、探しましたよ。集合時間とつくに過ぎてるんですからね。

男 悪い、悪い。

ガイド はい、じゃあ行きますよ。

男 はい、はい。

大介 何だ？あの人たち……どっかで見たような……？

祖母 大介ーっ！おーい！

大介 あっ、おばあちゃん。

祖母 何だ、こんな所におったのかい。バス停におらんかったから心配したよ。

大介 あうん、ごめん。

祖母 まあ、いいさ。お母さんが、近頃お前が元気がないって心配してたよ。

大介 大丈夫、心配ないよ。おばあちゃんあのね、このスケッチブックもらって良い？

祖母 そのつもりで送ったんだよ。

大介 本当？ありがとう。

祖母 どうしたんだい？

大介 僕ね……絵の勉強をしようと思つてき。

祖母 そうかい、そうかい。がんばってね。

大介 へへへ。

祖母 じゃあ、家に行こうか？

大介 うん。あのさ、おばあちゃん。

祖母 何だい？

大介 このスケッチブックって誰にもらったの？

祖母 え？

大介 これ、おばあちゃんの若いときの絵でしょ？

祖母 どうだったかね。

大介 それと、この柳田正って言う人は誰？ねえ教えてよ。

柳田正、(心の語り)「柳田さん、あなたの夢はウチの孫が引き継ぐことになったよ」

祖母 おばあちゃん？

大介 ……ああ、その話は、また今度ね。

大介 え、ああうん。

祖母 じゃあ、帰ろうかね。

大介 うん。あ、おばあちゃん。……手、持ってあげるよ。

祖母 ありがとう。大介は本当に優しいね。

大介 足下気をつけてね。

祖母 はい。

大介 ねえ、双子座って知ってる？

祖母 そりゃあ、知ってるよ。なんだい急に……

大介 いや、あの何となく。それでね、双子座にはね……

祖母 はい。

大介　ねえ、おばあちゃん…

祖母　何だい？

大介　あのね、おばあちゃん…

去っていく二人

ガイドと男（手には遺書のような手紙）、現れる

ガイド　よかったですね。

男　まあな。（遺書のような手紙を破りながら）過去は変えられないかもしれないが、あの子の未来は、あの子がこれから作っていくさ。

ガイド　そうですね。

男　…：…それも運命で決まってるって言うんだろう。

ガイド　さあ、それは言えません

男　なるほど、ハハハ…

男、破った手紙をポケットにしまう

柳田と操が会おうシルエット

幕

参考

Wikipedia フリー百科事典「東京大空襲」「双子座」

青雲書房 原博作「静かなる夕」より

あとがき

この作品（『スケッチブック』）は、青雲書房の平成三年に刊行された「明日へのドラマ」第3集 に収められている原博作品の「静かなる夕」という脚本の「老婦人が孫娘に、思い出の場所（川原の土手）で戦争の時の淡い恋を語る」設定をお借りして創作しました。

作品の設定をお借りすることを青雲書房に連絡を取り、改作、もしくは潤色の許可をいただきたい と伝えたところ、残念なことに作者原博先生は、すでに故人となられていて、その許可をいただくことは出来ませんでした。そこで、青雲書房の担当である川原昇氏に台本を送付して、一読頂いて 許可をもらう予定でしたが、川原氏から「原 博作品とは別の作品となっているので、巻末に設定をお借りしたことを明記しておけばよいでしょう」とご助言頂きました。

したがって、青雲書房からの上演承諾書は必要ないという判断をいただきました。

（昨今の著作権問題に抵触をしないための予防策のつもりでこのあとがきを書いています。この作品は、作者の原先生に敬意を表し、戦争を体験した世代の心に触れた現代の若者が、生きるということに少しでも前向きになってくれればいいなという思いから創作したことを重ねて申し添えておきます。）

末筆ながら、ご許可いただいた青雲書房の川原昇氏に感謝申し上げます。
げるとともに、原先生のご冥福を心よりお祈りいたします。